

研究・調査報告書

| | |
|--|----------------|
| 報告書番号 | 担当 |
| 151 | 札幌医科大学医学部薬理学講座 |
| 題名 (原題/訳) | |
| Acute alcohol consumption disrupts the hormonal milieu of lactating women. アルコールの急性摂取は授乳中の女性のホルモン環境を混乱させる | |
| 執筆者 | |
| Mennella JA, Pepino MY, Teff KL. | |
| 掲載誌 (番号又は発行年月日) | |
| J Clin Endocrinol Metab. 90(4):1979-1985 (2005) | |
| キーワード | |
| アルコール摂取、授乳、プロラクチン、オキシトシン、コルチゾール | |
| <p>要 旨</p> <p>アルコールは乳汁分泌促進物質であるという主張を支持する科学的事実がないにも関わらず、長い間、授乳中の女性は授乳の助けになるとして飲酒を勧められてきた。アルコール摂取が授乳期の女性のホルモン応答に影響を与えるという仮説を検証するため、17名の女性に一つの試行期間で0.4 g/kgのアルコールを含んだオレンジジュースを与え、他の試行期間では同量のオレンジジュースのみを与えるという個体内比較法実験を行った。2つの実験条件下で、乳房の刺激中と刺激後の血清プロラクチン、オキシトシン、コルチゾールレベルの変化と授乳効率、そして気分状態を比較した。アルコール摂取後数時間、オキシトシンレベルは有意に低下し、一方、プロラクチンレベルと鎮静、不快感、酩酊の指標は有意に上昇した。オキシトシンの変化はミルクの収量や放出潜時などでの授乳効率の低下と関連していた。一方、プロラクチンの変化は自己申告された酩酊状態と関連していた。アルコール摂取はコルチゾールの上昇を生じるが、このコルチゾールの変化は授乳効率や酩酊状態での変化とは関連していなかった。さらに、コルチゾールレベルは対照の実験日に徐々に低下し、このことは本実験の試行手順が被験者にストレスを与えるものではないことを示している。結論として、授乳の助けとしてアルコール(摂取)を推薦することは逆効果と考えられる。短期間では母親は(飲酒によって)よりくつろいだ状態となるであろう。しかし、授乳に働いているホルモン環境は混乱し、幼児へのミルクの供給は反対に低下してしまう。</p> | |